

「固定電話」の今後について



2015年11月6日

■ 現在ご利用いただいている「固定電話」*を逐次IP網へ移行することにより維持

*PSTN（公衆交換電話網：Public Switched Telephone Network）により提供する加入電話及びINSネット（音声）

- 基本的な音声サービスはご利用可能
（基本的な通話に加え、ISDNの通話モード、キャッチホン、ナンバーディスプレイ、公衆電話 等）
- お客様宅での工事は不要で電話機等はそのままご利用可能
- 基本料は可能な限り現状と同等の水準を維持
（既存のメタルケーブルを継続利用）
- 通話料は距離に依存しないIP網の特性を活かし、よりお使いやすい料金へ
- 2025年頃に中継/信号交換機が維持限界を迎える中、
IP網への移行時期については、関係事業者との対応を踏まえて別途公表

- お客様にできる限り負担をおかけしないよう「固定電話」を維持していくために、IP網への移行に合わせ、「固定電話」が歴史的に果たしてきた、【別紙】に掲げるPSTN特有の機能については、原則、具備しない。
- 併せて、「固定電話」の提供方法等についても、できる限り効率的に提供できるように見直す。

（具体例）

- 自治体等からの要請により無電柱化（ケーブルの地中化）等を行うにあたって、メタルケーブルを再敷設せず、光や無線を使って提供
- 「固定電話」に求められてきた高い通話品質基準（遅延条件等）を携帯電話並みに見直し

■ IP-IP相互接続に伴う「つなぐ」機能

- ハブ機能（NTT東西経由で接続） → 主要事業者間は直接接続
- 複雑な事業者間精算機能（複数事業者間で従量精算） → 簡便な精算

■ 「固定電話」が中心だった時代に導入された機能

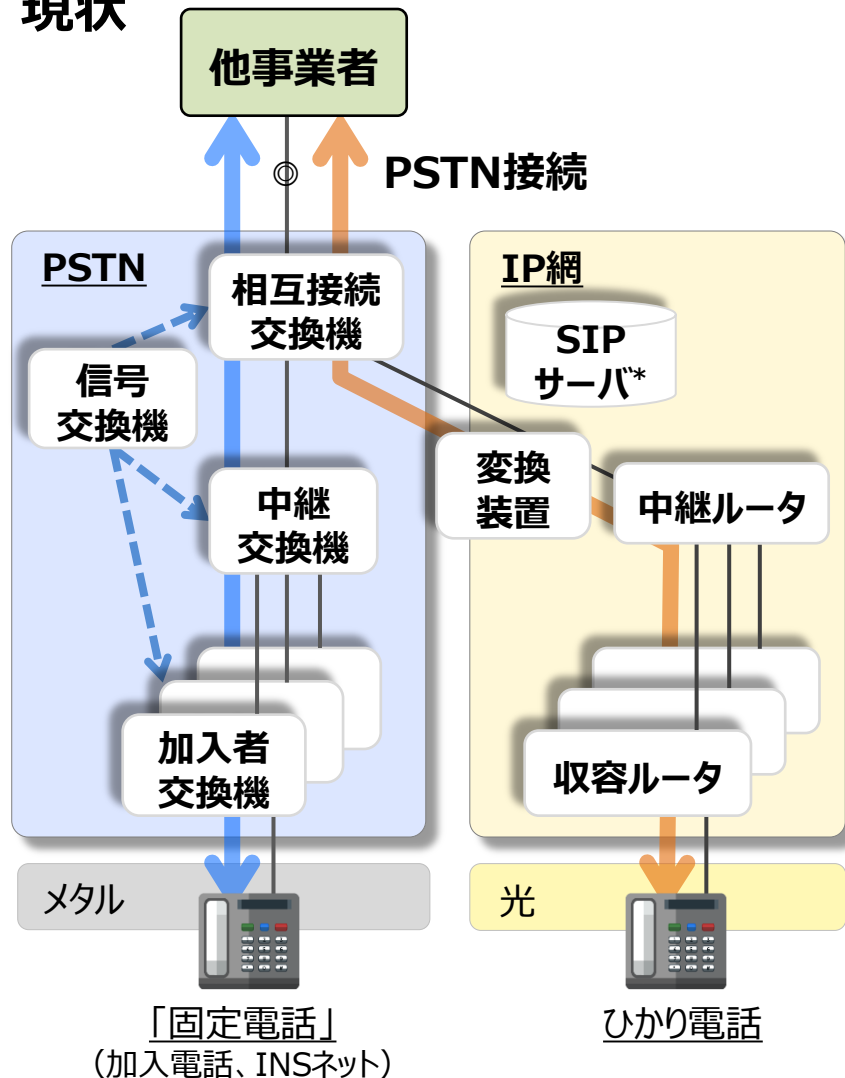
- 優先接続機能（マイライン）
/中継選択機能 → 具備しない
- NTT東西から他事業者への
「片方向型番号ポータビリティ」 → モバイルと同様に事業者間での
「双方向型番号ポータビリティ」
- 公衆電話から携帯電話等への通話
における事業者毎料金設定機能 → 事業者一律での料金設定

■ その他のPSTN特有の機能

- 110番や119番等の緊急
通報に係る「回線保留機能」 → モバイル、IP電話発信時と同様に
「コールバック」により対応

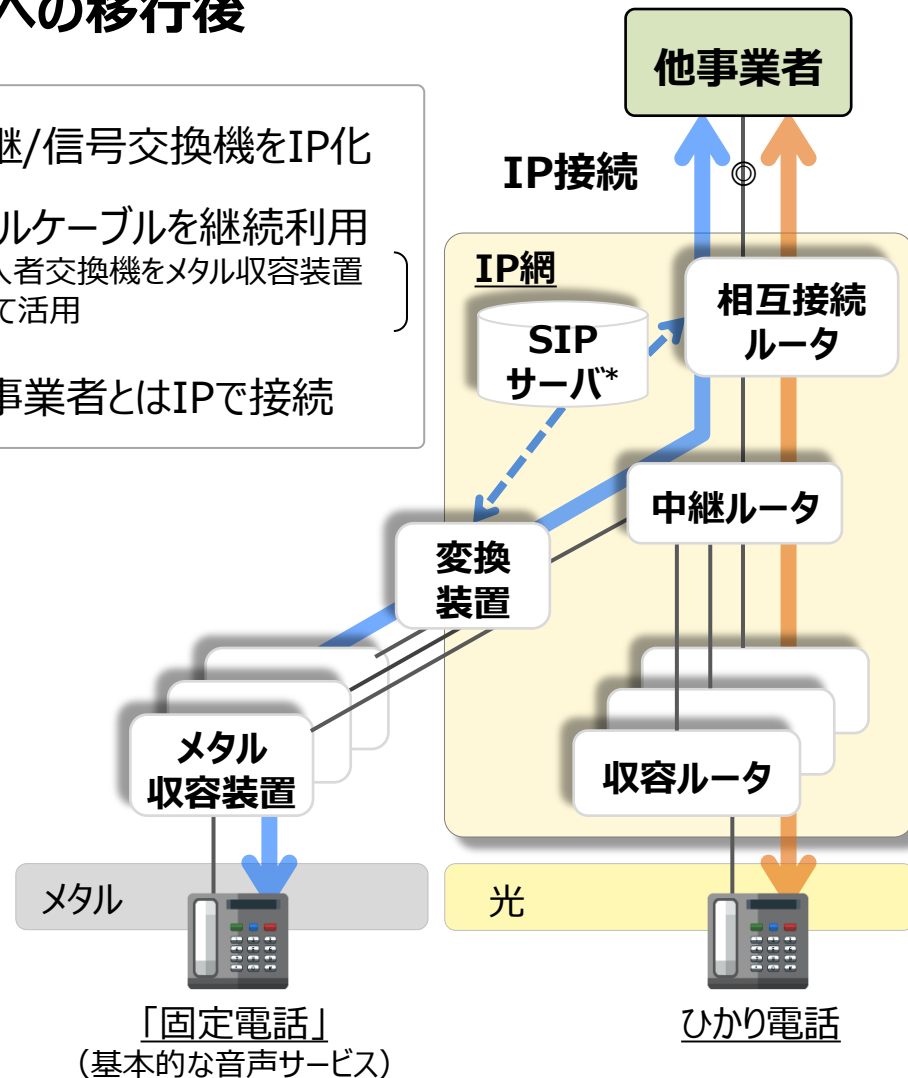
(参考1) PSTNからIP網への移行

現状



IP網への移行後

- 中継/信号交換機をIP化
- メタルケーブルを継続利用
〔加入者交換機をメタル收容装置として活用〕
- 他事業者とはIPで接続



* IP網における電話サービスの管理・制御を行なうサーバ (SIP: Session Initiation Protocol)

(参考2) 音声通信を取り巻く環境変化 NTT

モバイル・ブロードバンドの進展により、コミュニケーション手段が多様化（ソーシャルメディアの急速な普及等）し、「固定電話」のプレゼンスは大きく低下

2000年度末

メール

「固定電話」^{*1}
6,200万

モバイル
(携帯電話+PHS)
6,700万



2014年度末

ソーシャルメディア、ネット通話等



*2



メール

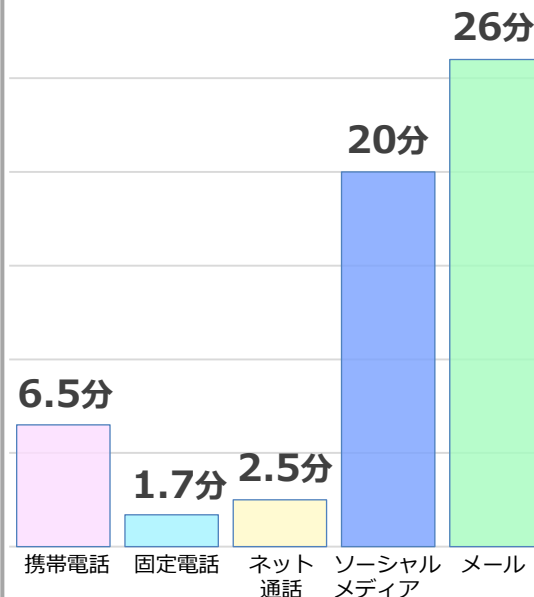
「固定電話」^{*1}
2,400万

固定
ブロードバンド
3,700万

モバイル
(携帯電話+PHS+BWA)
1億5,700万



1日あたりの平均利用時間
(2014年度・平日)



(出典) 総務省「平成26年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」

*1: 「固定電話」: PSTNにより提供する加入電話及びINSネット（音声）

*2: 図中で使用しているマークおよびロゴは、各社の登録商標です

本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされもしくは算定されています。

また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)を用いてなされもしくは算定したものです。将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。